



# The Y's MEN's CLUB of もいおか



## <VOL157.2021.1>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内  
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

### 「主題」

|            |                             |                        |
|------------|-----------------------------|------------------------|
| 国際会長       | Jacob Kristensen<br>(デンマーク) | 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」 |
| アジア太平洋地域会長 | David Lua (シンガポール)          | 「変化をもたらそう」             |
| 東日本区理事     | 板村 哲也<br>(東京武蔵野多摩)          | 「変化をたのしもう！」            |
| 北東部長       | 南澤 一右<br>(仙台青葉城)            | 「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」  |
| もりおかクラブ会長  | 長岡 正彦                       | 「暗雲をふりはらえ、きっと未来は明るい」   |

今月の聖句 ルカによる福音書、6章44節

**「善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。心からあふれ出ることを語るのである。」**

|      |            |
|------|------------|
| 会長   | 長岡 正彦      |
| 副会長  | 山口 貴伸      |
| 書記   | 濱塚 有史      |
| 会計   | 大関 靖二      |
| 担当主事 | 中村 渉 (チャン) |
| メネット | 井上 優子      |

### 令和3年2月定例会

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 日時、場所 | 2月13日、18時30分より<br>盛岡劇場河南公民館 |
| 卓話    | シンディさん                      |
| 第二例会  | 2月27日、18時30分より<br>駅前居酒屋じよ居  |

### 会長巻頭挨拶



長岡会長

みなさまこんにちは、2021年が始まりました。遅ればせながら「明けましておめでとうございます。」新型コロナの襲来で首都圏に非常事態宣言発出と共に新年が始まりました。今年は人類がパンデミックに打ち勝つ歴史に残る年になります。私が前回の会長を務めていた時は東日本大震災が発生しました。今回はコロナパンデミックです。今の子供たちは後世にどのように伝えて行くのでしょうか、笑い話になればいいのですが。

さて、ワイズメンの会員増強が叫ばれて長くなっていますが、もりおかクラブは現状小規模クラブになっています。なんとか新規会員を増やしていきたいところです。そんな中、古澤メンが闘病生活に入り、長く病氣と付き合いという事で昨年末に脱会しました。非常に残念な事ですが、いたしかたありません。古澤メンの病状が回復することを願うばかりです。

2月の例会は、気分を一新して盛岡劇場河南公民館で行います。岩手県公会堂の会議室とも考えましたが、飲食禁止のためワイズのスタイルには合わない事が分かり、断念しました。

盛岡劇場は大正2年に開設され、盛岡の文化発展の象徴でした。宮沢賢治も幾度となく足を運んだとの事です。戦争や老朽化に伴い閉館となりましたが、花巻の谷村貞治により谷村文化センターとして再建されました。盛岡の文化人による文士劇がここから始まり、年末の恒例行事となっていました。谷村氏が亡くなると、衰退が続き、昭和58年に70年の歴史に幕をおろしました。その後、平成2年に現在の盛岡劇場が再建され、河南公民館も併設されました。盛岡文士劇も再開して、新たな年末の



近代的に生まれ変わった盛岡劇場

恒例行事となっています。こんな歴史をたどった盛岡劇場でもりおかクラブの例会を開くのは、これはこれで感慨深いものがあります。コロナに気を付けてどうぞご参加ください

# 1月のハッピーバースデー 1/3 中原 眞澄マン、1/3 濱塚 有史マン、お誕生日おめでとうございます。

## 盛岡YMCA、本町センターの悲劇

本町センターはこの冬、大変な事態に襲われました。マンション3階の住人の部屋から大量の水が溢れだし、2階の本部事務所、1階の本町学童が厳寒の中水害にあってしまいました。なぜそうなるの？ 暖かい地域の方々には理解できないでしょうが、私は何となくわかります。「たぶん、そうだったんじゃないか劇場」チコちゃんふうにご考察してみます。

盛岡は冬将軍の襲来を受け、連日氷点下10℃を下回るようになっていた。雪は少ないものの、残っている雪は岩のように固まり、高松の池も凍り付いていた。当然、水道管の水も凍り付く。蛇口をひねっても一滴の水も出ない。「あ、凍結してしまった」水が出ない口を恨めしそうに見ながら、出がけにコンビニのコーヒーでも買おうと一杯のホットコーヒーに心は傾いてしまった。ひねった蛇口をまた元のように締めていればこんな事にはならなかった。マンションは、隣室の暖房で暖くなるものだ。日中、

徐々に温まった部屋の温度はプラスまで上昇する。一滴、また一滴。蛇口から水が滴り始める。誰もいない部屋で、一気に蛇口から水が噴き出してきた。この時、まだシンクの排水口は溶けてはいなかった。当然、シンク一杯に溜まった水は台所の床に溢れだす。そして下の階へ、水が流れゆく。水魔が忍び寄っていることを知る由もない盛岡YMCAの本部事務局は天井から滴りくる水魔に留守中だったため気づかずにいた。

事務所を制圧した水魔はさらに1階の本町センターに向かって進軍。あっと今に本町センターは水魔に占領されてしまった。こうなると元の水道蛇口を締めても、水魔の進軍は止まらない。ついには、人間たちが建物から撤退を始めたのだった。ああ、本町学童。

活動先を内丸教会に移し、学童保育を継続。大家や管理会社との交渉もむなしく、現存場所での活動を断念。移転先を探すことになってしまいました。

## 東日本震災から10年、アーカイブス。

2011年4月掲載、

### 奉仕活動拠点を設置 NPO 法人盛岡 YMCA

NPO法人盛岡YMCAは東日本大震災で、宮古市大通の日本基督教団宮古教会にYMCA宮古災害ボランティアセンターを設置し、活動を展開している。宮古市社会福祉協議会と連携しながら、ボランティアが家屋の片付けや避難所での要望調査などを実施。今後は地域外からのボランティア受け入れも準備していく予定だ。（岩手日報の掲載記事の引用です。）



活動の様子

4日はボランティア3人が同市大通の坂本成子さん(74)方で家屋内に流れ込んだ汚泥、壊れた床板を撤去。坂本さんは「1人では片付けられず、困っていた。大変助かる」と感謝した。被災後、同教

会の森分和基牧師らが近隣地域でボランティア活動を開始。全国のYMCA組織の支援を受けて同センターを開設し、活動を本格化させた。同センターでは2週間余りにわたって、YMCAスタッフや登山家ボランティアら10人前後が自炊。センター周辺のがれき撤去、家屋の片付け、避難所を回って被災者の要望を聞き、行政や社会福祉協議会に伝える活動を進めている。同センターは宮古地域での活動に加え、グループ単位や内陸からのボランティア受け入れに向けた準備を進めている。一方で、被災した沿岸部は内陸部と距離があるため、受け入れ態勢の構築には課題がある。阪神淡路大震災の際に神戸市長田区でボランティアセンターを運営していた日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘の佐久間真人営業主任は「地元の負担にならないようにしなければならない。地元が自立できるよう助けるのが、ボランティアの役割だと考えている」と指摘。「継続的に活動できるボランティアの受け入れ態勢を模索している」と語る。

盛岡YMCAのボランティア活動の取り組みは早かったです。いち早く現地に向かったのは直前会長の三田メンでした。

## 編集後記

活動停止が続いております。今月も記事がほとんどありませんでした。アーカイブスと、復興の様子を皆さんにお届けしたいと考えています。

盛岡の冬は、久々に冬らしい冬になっています。28日、29日

の両日合わせて50cmくらい雪が積りました。盛岡の雪はそんなに多くはないのですが、寒さは東北の県庁所在地では1番です。これからは南岸低気圧が北寄りに進み、しめった雪が降ればもうすぐ春です。あと半月もすればずいぶん春めいてくることでしょう。



氷点下8℃以下の芸術



「枯れ木残らず花が咲く」とはよく歌ったものです

